

終わりの日を思って今を生きる  
——シラ書から

旧約聖書続編・シラ書 27 : 30 ~ 28 : 7



司祭 ヨハネ 井田 泉

2017年9月17日  
聖霊降臨後第15主日

奈良基督教会にて

本日の「シラ書」は旧約聖書続編に含まれるもので、紀元前200年頃、ベン・シラ（イエスス）という人が編集した信仰的教訓集とも言うべきものです。今日はそのシラ書の言葉のいくつかに触れてみることにしましょう。

ところで聖書を読んでいて、ここは避けて通りたい、という箇所があります。わたしにとってのその一つが、実は今日の箇所なのです。しかし避けて通りたい箇所にこそ、大切な神さまからの呼びかけがあるのではないか。そう思って立ち止まって聞いてみることにします。

「27:30 憤りと怒り、これはひどく忌まわしい。罪人にはこの両方が付きまとう。

28:1 復讐する者は、主から復讐を受ける。主はその罪を決して忘れることはない。

2 隣人から受けた不正を赦せ。そうすれば、願い求めるとき、お前の罪は赦される。

3 人が互いに怒りを抱き合っているながら、どうして主からいやしを期待できようか。」

自分はこの年まで、たくさん怒りを抱いて生きてきたなあと  
思われます。

.....

「6 自分の最期に心を致し、敵意を捨てよ。滅びゆく定めと死  
とを思い、掟を守れ。」

ここで「自分の最期」という言葉に出会いました。

「自分の最期に心を致し、敵意を捨てよ。」

それで、自分の終わりの日にしばらく心に向けてみます。自  
分の終わりの日はどのような日なのか。

今日の使徒書・ローマの信徒への手紙 14 章にはこう言われて  
いました。

「わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。」 14:10

わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つ。自分がどう生き  
てきたかが問われる。そのときはどのようなごまかしも自己正  
当化も通用しない。それを思うとき、わたしたちは今を生きる  
姿勢を正されます。神を畏れることを学びます。これが今日大  
切にしたい一つです。

シラ書には「主を畏れる」ことを呼びかける言葉が響いてい  
ます。少し耳を傾けてみましょう。

「2:7 主を畏れる人たちよ、主の憐れみを待ち望め。わき見を  
してはならない。さもないと、道を踏み外す。

8 主を畏れる人たちよ、主を信頼せよ。そうすれば必ず報われ  
る。

## 9 主を畏れる人たちよ、主が賜るすばらしいこと、すなわち、永遠の喜びと憐れみを待ち望め。」

終わりの日を思いつつ、今を生きる。主を畏れて生きることは、窮屈でつらいことではなく、信頼と希望の道、主から来る永遠の喜びと憐れみに至る道なのです。

先ほどローマの信徒への手紙から、終わりの日について

「わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。」

という言葉聞いたのですが、同じパウロのもう一つの言葉を心に留めましょう。

「わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。」コリントー 13:12

これは「愛の賛歌」と呼ばれる箇所最後のほうです。昔の鏡はぼんやりとしか映らなかった。そのように神さまのこともイエスさまのことも、わたしたちには鮮明ではないかもしれません。

しかし「そのときには」、その終わりの日には、わたしたちは「顔と顔とを合わせて」救い主イエス・キリストに出会うのです。わたしたちの弱さと悲しみを知っておられる方、わたしたちの破れと罪を引き受けて死んで復活してくださった方が、微

笑んでわたしたちを迎え、わたしたちの人生の労苦をいたわってくださるのです。

ですからわたしたちは神を恐れつつ生きる時、恐れて萎縮する必要はまったくありません。

そこでもう一度シラ書のいくつかの言葉を聞きましょう。

「3:17 子よ、何事をなすにも柔和であれ。」

「4:9 不当に扱われている者を、加害者の手から救い出せ。勇気をもって決断せよ。」

「26 罪を告白することを恥じるな。」

「27 愚か者の言いなりになるな。権力者にへつらうな。」

「28 真理のためには、命がけで戦え。主なる神も、お前に味方して戦ってくださる。」

「11:20 契約をしっかりと守り、それに心を向け、自分の務めを果たしながら年老いていけ。」

「17:26 いと高き方に立ち戻り、不正に背を向けよ。〔主御自身が、お前を闇から救いの光に導いてくださるから。〕」

このような道を歩もうとする時、わたしたちの傍らにひとりの方がおられるのを知ります。わたしたちを支えつつ、人生を導き、終わりの日に喜びをもって迎えてくださる方。イエス・キリストです。

イエス・キリストが喜び迎えてくださる終わりの日に向かって、神を畏れつつ、柔和に、過ちを懺悔しつつ、正しくしっかりと今を生きていきましょう。

それが、シラ書をとおして神が招いていてくださる道です。

祈ります。

神さま、わたしたちを守り導いてください。あなたを信頼して、終わりの日を目指して、誠実に、忍耐強く、愛をもって歩ませてください。そのとき、わたしたちの救い主であるイエスさまがいつも傍らにいてくださることを教えてください。**アーメン**